

214
7

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

我家草

古田道灌翁撰

全

全一冊

全二冊



新編 又 氏 陸 州 一 七 三 七



1948

陸海軍省
圖書部
贈送
池田西蔵

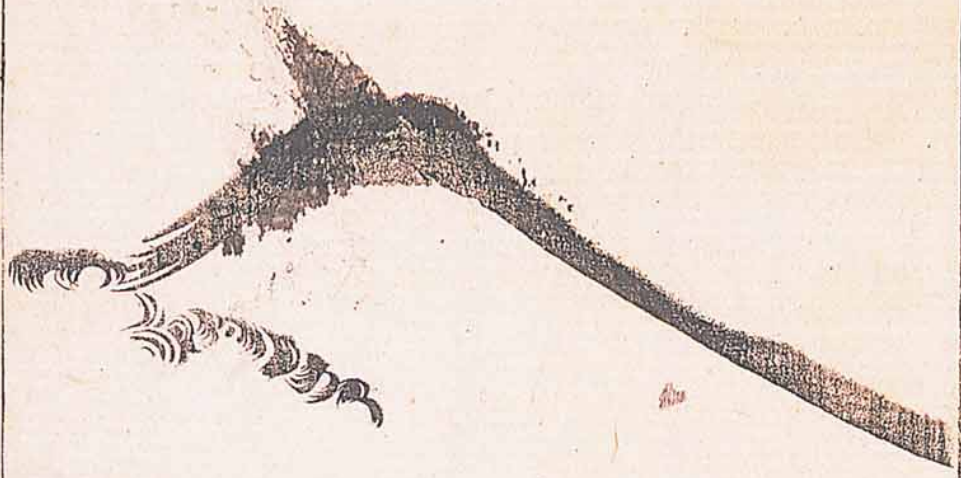
秋宿州序意

右田道灌翁撰

秋宿之松原 昔紀海月とて富士と新瑞と泳中
云葉の如絲 此は是くよふりし一とこれ世と来り
今の世ふ較ふや即ちりこれをかげれあつて作は
代りやむじりし 弘臣賊士の威とつりし 人道は
遊るより 文宣王の徳をほいでる 孫を國人の救
はるばる 妹の仁と文宣王の比とあふたふ
遊ひて 學びをうへりし 至聖後世の爲るを

むん易いこれ其の一と云ふ事云はるを悔く事愚の
 事也云うやわらん九之綱五等の作一とじりて
 作世安氏の誅から聖人の意をかちせりは徳と徳を
 國と守り御身として老弊禹湯文武の徳と慕ひ
 格政の身として周と且れ遺行と貴ひ夷狄が解
 料白程嬰が忠と務くせんはさう及の深ありたこと
 犯一國とれる罪とさう一侯抑我朝の首と傳へま
 くし
 天照之神遍く世代構く命く事芽茂く希榮極削

らね聖代にそむに兵の及征とく一也と求
 るる事一侯恩に歳ふあまの事神道とていふ
 玉室の御一美機の政をじりり一に聖徳をす初
 るも靈瑞の法とそむ賢臣守臣は長を教とて一
 より仏法とていふより決才に玉室表徴一も有ね
 白河の二帝ふくまひの御がほく武家のたりて代を
 うぐまはひぬ事支圖才の尊も彼以法とていふ事
 とは一侯とそむはるはに竹を日徳とくみはひも事
 号崇一たすまのあふりり一侯格の備と遊も事



翠羽魚



終人と見せばかゞらぬ法の不若なる業とあはれど
 らんとあはれ身ををかざるに地元の頼りて下と
 作より武家相續て世をこゝろ小宗恭時方遣て
 僧徒と穢しよりく書と讀んで求むる功と得
 聖賢の遺書とて道徳の一端と知りしひかり道と
 うらひけしとて國家よく作らるるにさゆがせふ及て徳
 衰へ悪盛るるて家なろぶ 後醍醐帝も國民と
 直に終人の義云かり終むる世を棄つて終ひぬ
 考氏も世を治り終るる終むる世を棄つて終ひぬ

剛神のみやじとふかゝるる終るるやと信し
 はらり終るる今ふいりて終るるの終るる高の師
 直が家へ終つて源道の家法と海一巻の書と
 かゝ徒然茶とふばり頃方の森心の後よ是と考
 よまき敵よとて終るるの度よあはれ終るるも
 祈るる優美かりあつる終るるも教とまはひあり
 たまひいとあの日まはるるよあはれいばふす法を
 惜むる聖賢のまはるるよあはれ終るるもあはれ
 いふ終るる終るる一生を終るるよあはれ終るるもあはれ



（新編）
いふを書わぬ母を後の人はむくと云の真
ふとて書とりのり

渡海わたうみの杖つえ宿しゆくと松まつ系けいはれと縁ゆかりる如ごと欲よくと入い道だう

上うへ海うみのうへれ船ふねをうへる宿しゆくといいばいのいかどかど身み

後あとりりととななるる者ものささららししめめてて終はつつつとと野の史しのの記き

いふよりいふより母ははををととややせせりり就しゆままととるる家け集しゆのの

慕ぼ景けい集しゆとと一いつ冊さつ近きん刻こくとといいふふ次つぎ勿な論ろんととれれたたららししとと澄じやうとと云い

ののもも洋やうとといいふふ後あとのの者ものををれれ終はつつつととすすののとと

天あま周しゆうのの地ちけけりりままりり人ひとはは次つぎ之のつつのの物ものとと陰いん陽やうのの凝ぎやうるる形かたち

此こゝのの身みををかかかりり天あまのの氣きとと神かみとと云い比ひのの氣きとと鬼おにとと云いよよ

有あのの湯ゆははてて表あへかりり下したよよああるるとと陰いんははててははかかとと上うへ明ありり

一いつてて下したにに一いつをを夜よとといいふふ一いつ日いち中ちゆうのの大だい法ぽうとと皆みな神かみ

道みちありり一いつくく直ただくく身みをを作つくるるをを神かみ道みちとといいふふ天あま地ち乃なり

氣き候こうをを受うくるる人ひとふふととばば天あま理り地ち道みちとと年としととんんととんんととわわるる也なり

りり一いつ次つぎ

天あま照てう大だい林りんのの方かた成なりをを教おしへへるる人ひととと天あま地ちのの靈たまををりり終はつ澄じやう

かかりりををよよししとと次つぎ月つきはは不ふ淨じやうをを入いるる事ことももああららずずとといいふふ

不浄を聴くはよこらふと鼻よふ浄を嗅ぐは
 小嗅ぶと大嗅ぶは浄を云くは臭は觸ぶと臭は
 味は舌の徳と母ありとの割教たのふと終
 ありあり有るは身なりや靈は天の有るは有る
 靈をわたりて靈は一徹と一徹の味なりて
 害大かり有るは靈とみづくはと万民を憐れ改
 道と一と一と有るは有るは靈をみづくは
 道を教むを有るは有るは靈を徹と有るは親よ
 孝をかぶる人のうむいと死に道を廢と有るは

靈多よこらふをむいと有る人の悪む死のよと死に
 死を道理よよいててまごの君子の道と有るは
 が倣て求むは正成はとて死と有るは道理を
 守るはかり人の道理よふからぬを禽獸よむかど
 有るは有るは有るは有るは有るは有るは有るは
 かり今の世は賢人をかき悪のとらふは善人をや
 いふ人今の世は良臣といふ一の城臣と有るは宣ふを
 懼むは有るは實歎くは餘わり
 有るは有るは有るは有るは有るは有るは有るは
 有るは有るは有るは有るは有るは有るは有るは



け交礼多と會教と次君は人ふ不禮義とすりの忠
 とせし子父はくまの孝とせし婦ははくふはくふ
 節を守り身はくまの教とせし朋友はくまの交り
 信しりてとせし君はくまの恩を厚くし号とせし
 父子を憐しむ道とせし兄弟とせし不慈を以て
 とせし鵜鵠とせし言とせし龍虎をくまの仁とせし
 とのいへしとせし獸とせし人としてせしとせし會教乃
 くのくまの聖教貴しうか

天照大神の大制と五臓の神安寧として天地乃

神も同様と天地の同様として万物の老と口徳之
 万物の老と同様として物を処置して成就せし
 云しとせしと宣ふとせし徳とせしとせし人欲私
 ならずとせしと禁むとせしと謙とせしと大極と
 して徳徳の徳いとせしとて天地の道理とせし
 守りて身はくまの徳とせしと綱五帝とせしと
 道は背く事とせしとせしとやんを治とせしと
 神明と通るとせしと大制とせしと徳有とせし
 國の徳とせしと國の老とせしと徳とせしと徳とせし



我宿州

神託云く國々を度ての國と号すまはるるに非たりとあるに
一國たりと一國たりと云くをたれに東夷西戎南蠻北
狄の風俗一なりと云く人々を分るるところ也東夷の
人東夷の風俗と云く西戎の人西戎の風と非ありと
ともを國の古史と云くはるはるをその人なりを
も教くはるはるをその國と云くを其者なりを
靈と云くをその度と云くをその日なりを度と云くを
その日なりを度と云くをその日なりを度と云くを
其國と云くをその國と云くをその國と云くを
其國と云くをその國と云くをその國と云くを

中しを度と云くをその國と云くをその國と云くを
其國と云くをその國と云くをその國と云くを
其國と云くをその國と云くをその國と云くを
其國と云くをその國と云くをその國と云くを
其國と云くをその國と云くをその國と云くを
其國と云くをその國と云くをその國と云くを
其國と云くをその國と云くをその國と云くを
其國と云くをその國と云くをその國と云くを
其國と云くをその國と云くをその國と云くを
其國と云くをその國と云くをその國と云くを

皆母のおよそといひて海にりた半に候も今母
 のありさぬれのみまよひて半かな人を寄
 けしとて君と裁一兄弟相別して思をうけひこと
 日中のまよわぬ又學識するの美事とよも丸に威士の
 多し古聖人の實法に子懐きて歎然とひし一見者
 懐統よ書を棄てりこれと思ふよ日中の小國をきこし
 天照大神の德澤今かのまよひく懐とぬきても王室の
 うらむ候もよむたのまよひ候唐の人と侍とほくまて
 志と出づ日中の人と誠をよみて思ひ候とてんたて

い中た才も和歌の道は心を考はるこしとや
 或人乃と家よ和歌と候よし加り候しあふ
 だしといひども家職と捨て候りこそあしあは是
 心とよせと母のつと人歌と違ふ様も候
 唐のまほが獲式くつととよひ携り上り河原遊み
 暮灯と緋袖暖路側恨く不得辞晨風鳴北林
 燭耀東南花ほき日守里安知我を然と依し
 秋ひ月らよ秋と借きたあしとや物と感と人
 有てこそ憐じとあはれ道理とせんと感



我宿州上

十三

てこれをたりら悪と見せしめて逃して捨る
 惑と何うもなほしむ方の今をせめてしむ
 其の書と漢もくも益かろうとせし教と其の
 こも道理と知る端はなかりぬるをそのゆり
 待日女のお款とありてとるのけは是るや
 抑りうも人の思ふの執程の化しりて益か
 唯はそら一れを倭衆の人愚言して言とて人
 人のたぐひなり無道の人と遊て捨かす半のゆ
 せんと思ふていふもやうとれ人のけさる

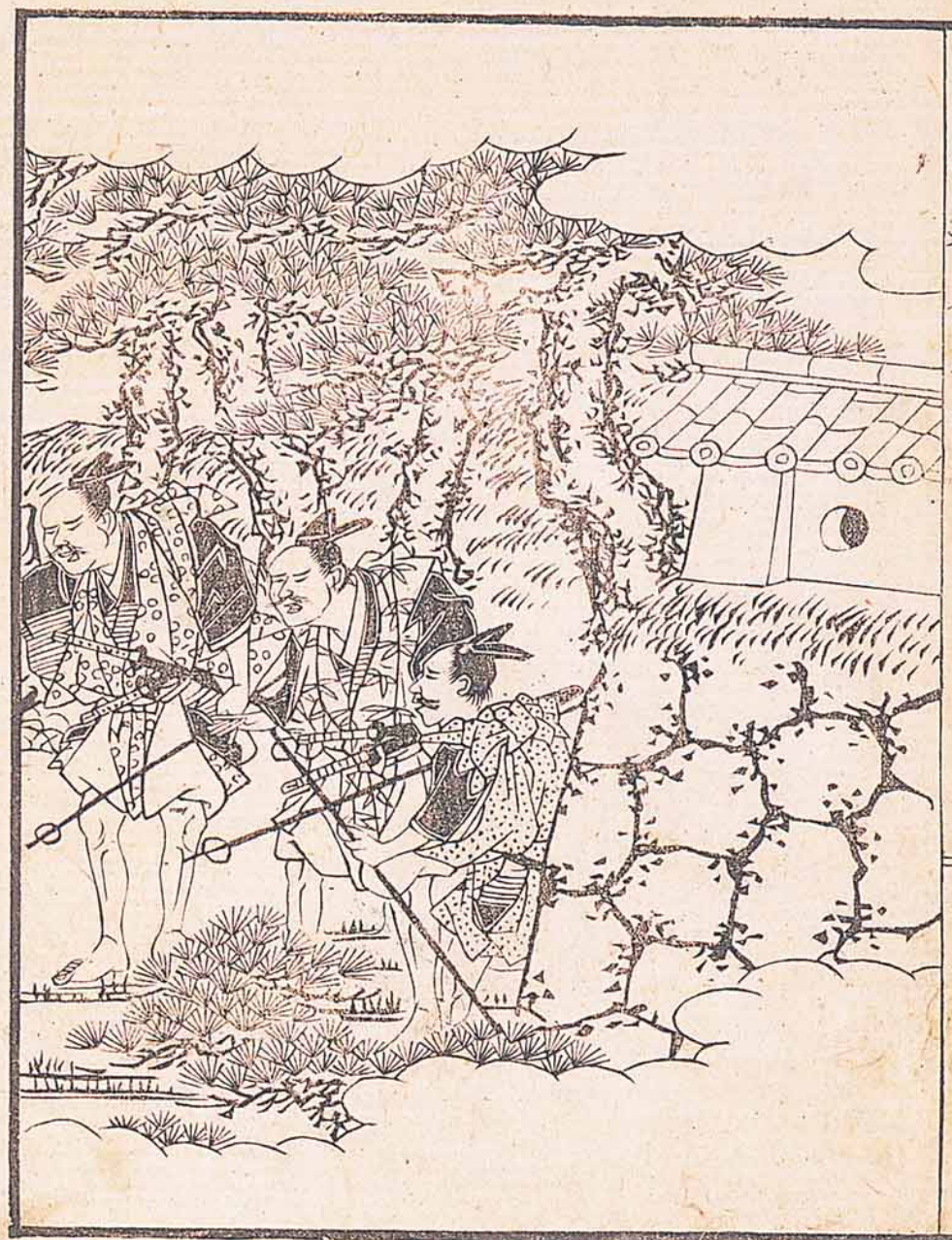
を此を今の世に法をりてそのゆと業
 見ゆは釋迦といふと西方の聖人とてうたれ人
 たりては後でこのと無道の教とありては
 ことと文字と字と經と馬馬とふられむその道
 とまふ今の法とみか此法とてより杖の申
 身と捨ててしむるを安人とてよ言へ人の言
 とくあり欲をくくくよりけり不釋迦乃
 法とて幼稚なり童老よ若る尼法師と
 飢餓と旅家の糧とてしりありけり盜僧の

らまにみらあひも國郡のまあひも富貴の
 人と遊しての國姓とはあな一黨と建て佛を作る
 たがひもか礼儀の城なり百人の僧と集て後公陸國の
 僧と懸てをくあへんかさうと一うり東瀛一
 水練恭は執権の一人の僧あひて茶はよ云りりき
 公も一茶かあへばひの伽藍とてんさう一結
 と云茶は建とておこもやとりかんその徳いり
 かりまやと同僧の云一字の塔伽藍とてんさう
 一ゆとば作世安氏後生若祈る孫繁昌れ切徳

けりて茶はのいよく仏法と神道と聖法とは何と
 け勝劣あり僧の云神道聖道ハ仏法よりびかに
 と茶は笑みて一隊團へして万号道と建ふと
 うづばとてふべ一日中宗廟若神定を小社と若
 簪よして渡らあそむとも神道とて秋津洲の
 うらふ通せり和僧のころろをたぐりて修功
 の大小はう渡らあそむと道よりあふらたてとてあ
 ぶばよ若嫁ありと神定とてようばたなれりてと
 して伽藍をくつてとてんさうとて大は強運よとて今

伽藍とて今やせむを貴大なるべし國のたひなる
 ばしこれ安民の便なり次民のくばしそなるべし
 理世安民と云行るもや世をまゝらば是れ眷屬とは
 ごとしよりおかしし我子孫安んぢばいのす
 ともけし之悪人何をもいのばともならぶぞし
 ことと家業とては能志の半冠し此家道がぬ
 身とや聖賢の法神道の意味係長から半紙
 いろぞり志りなきとて言一夫乃あるべし万葉は志を
 掲げしは佛はおとばあし此半をあらし

和僧孫念よわしは政の妨しむからべし儀智乃
 穿家賊とてしるは孫しむからべしとて孫念を
 追出しけしを後さかすくの僧これなむとて
 人と相ひた素体はかたは賢ありしりし時頼が
 代は建長とていふべしを建しよりかむらう中よ
 五ふとて大なる寺とてあまし作るそ外國よ
 寺をたふる半教を志し次國を大とてよはお之
 團城衛は備へるとも氏を後想國際とて僧よ
 建しとて天龍寺を建立しわぶとあめこと



のこぼかりりた武將の身とてわが国を治るるも
ても國を治るる半うこのかたを寺と法とを
ごうあゝと走四岳を備へて流芳の民を救ふ
けりりこぞあゝは不けり

よき巻終

秋宿州巻之中

省後房の宿へ楠正成と赤松赤心と武人ゆたたり
後房出給ひては方ふの物結とじて居給ふまより
文親法師出来まより 君の恵ふ施ける法濟さきび
牙と持つて坐るをひうせてはびてりたわりのまより
後房文親よひくい悪僧どのの治ひよはさしあり
けとハ文親顔色かりて悪僧といはふ邪見教違の
僧とこそたさへけとさへけとば後房智有人も感
りりかゝ朝廷の長ふほふまども長の道とめひ

けりては良しふあ、成和僧も仏の行、一とゆゑにねり
 真の僧より、成若やねと悪真の僧と偽り、和僧の
 悪僧杖の賊、巨する、と受之、強て文親、まふかなくあ
 降、ねあふほぐ、空居て文親と世にあらび、る君乃
 寵、佛より成ら、つらと富みのつらと云けと、心成
 の中、と是と成、つらと富みのつらと云けと、心成
 か、つらと富みのつらと云けと、心成
 心成の賢、つらと富みのつらと云けと、心成
 つらと富みのつらと云けと、心成

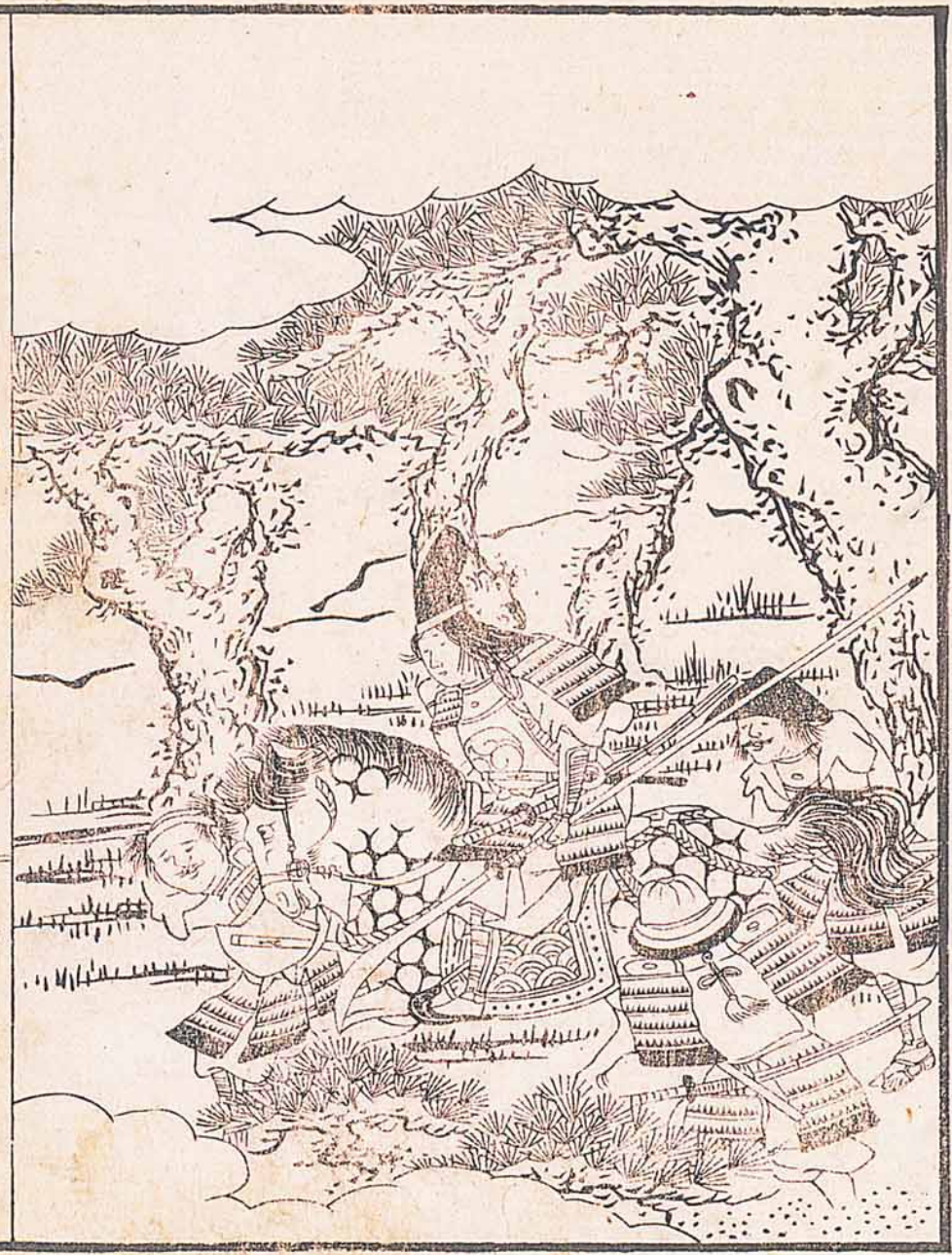
けりては賞とつらと富みのつらと云けと、心成
 意と、つらと富みのつらと云けと、心成
 悪僧と、つらと富みのつらと云けと、心成
 ちて富みのつらと富みのつらと云けと、心成
 けと求む、つらと富みのつらと云けと、心成
 死者有、つらと富みのつらと云けと、心成
 け、つらと富みのつらと云けと、心成
 たつらと富みのつらと富みのつらと云けと、心成
 の栄耀、つらと富みのつらと云けと、心成



君一じうひく然をうくまを聖人不君ふはうては君の
 報を報とせ候その身と報一と報よ半一せて國を
 去ら聖人のゆふこそはばう先君ふ根とかりと半
 わうとと諸を給ひ一に成これを見てこれ悔ふ事か
 懐わ一人と知給ひて君のゆふ宣ふよこととぬうく
 感いひの圓心と竹葉もまゝ一候長て居けり候房
 りふまても方きひありの身とものらて美の申一と
 美とんたうかたら古教と今うと候うと給ひけり候
 儲と世をながくもねのひ給りぬよことととと給ふ候と

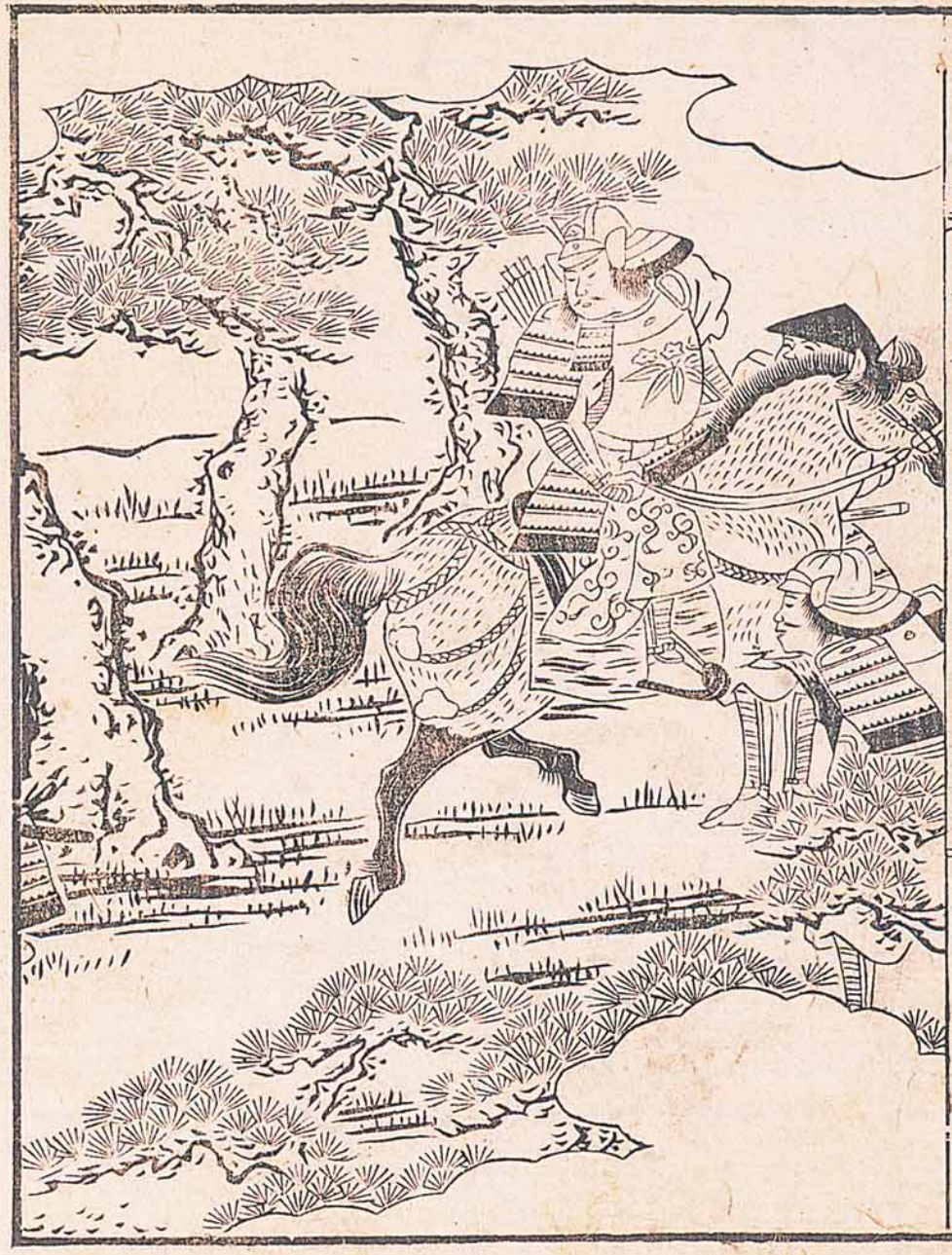
かう一候りねとうられおお紀よとくふり美よ美房の
 つらたのとれ徳ねとせ一人よことと今のおまてと泰
 すが一

今の世れ人徳といひて教の事とけりひ財をと集りてを
 徳とてとみりつとたうよ相違せりうられおお紀よ一候が
 宿まると新田義貞足利直義名和長年か會一と
 古人の合戦と海と義貞のいふ一軍とわい美河の
 だ一候がうとく美經と教とわい海とわい候故を
 美河と味方とわい候長年がうとく本曾が軍と



卷之四十一

七



科宿州中

四

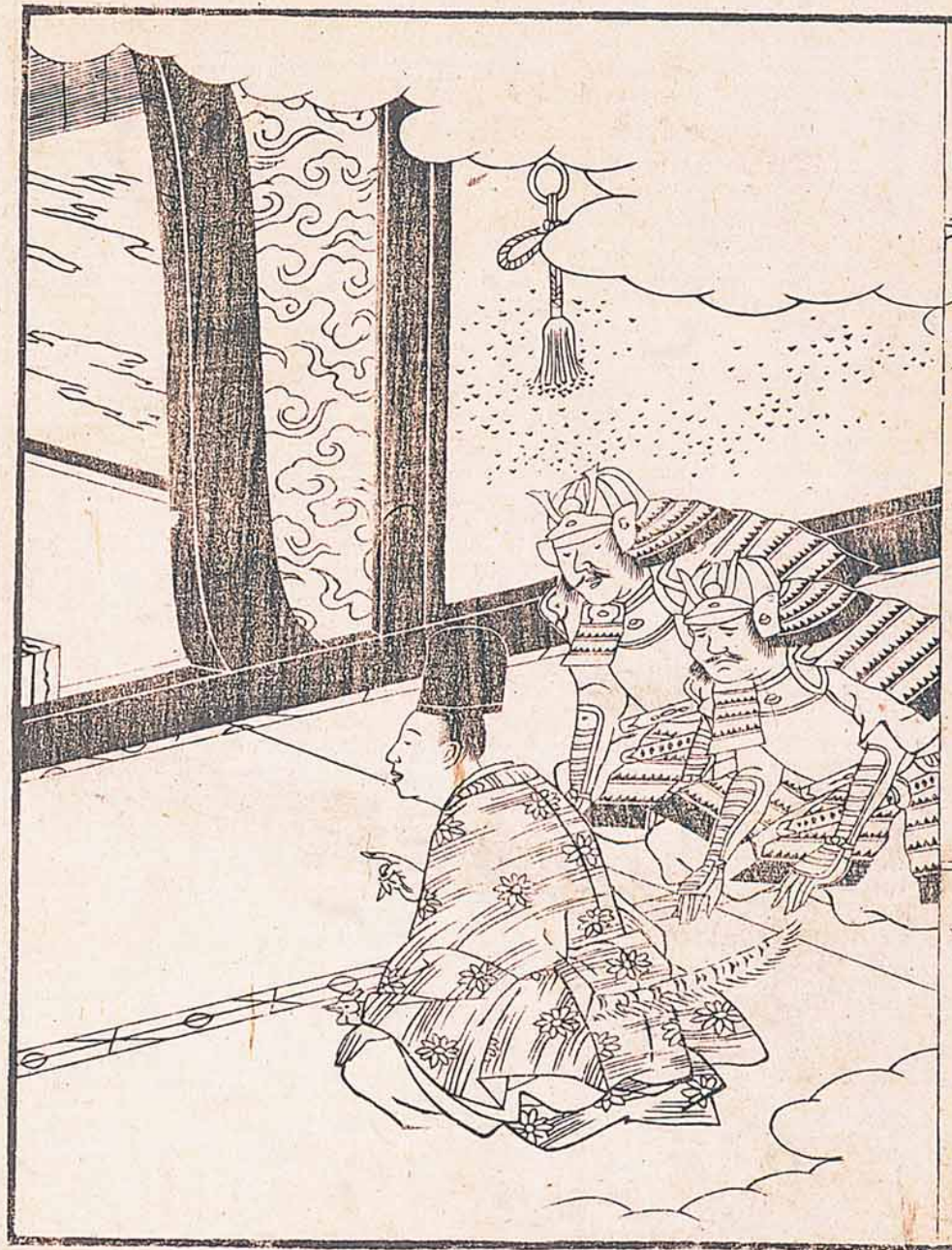
いふ正成がいづく義仲を誅とめて軍を得たり
 大將の義あつて義なり措いかな一字と書くは一文
 とも漢字は昔の道理と云ふは直義がいづく本
 曾軍とゆきりとはいふ義理よりの為くうたは
 ゆるりのと正成がいづく軍の勝願よりして軍の昔悪
 兵とゆきりいづく僕等七十餘人の合戦より祖
 母よりいづく韓信張良が誅せし軍を討つ
 いはわいづくの至るはかりは曾り義経
 討つるも主様悪と罷とらるはかまはいづく

批さうはわいづく義貞が云ふ義あつては曾り後
 いふ正成が云ふ義と學でいづくはわいづくは
 文なり聖賢の神へとめて道理と云ふは
 悪者と云ふ盗賊の人れ物と奪ふは希代に誅と云
 といはれりや本曾り道理と云ふは悪と云
 圓白といふ人といふは是明法師が大威冠の
 おくは成経といふはこれを用いて圓白と云ふ
 夫といふからぬ半の悪づるを云ふは此の
 かねて君を云ふを云ふは悪の改と云ふは

たるんは惣領とてぬ士の色よけりしと
 知りて其の軍よ巴と久とありしは
 本曾よりげりふ惣領をけりぬだしと
 いふ一文字とてあてて事をすりし
 義經とて書の一巻とてしは身が
 長年うを本曾大將の意ありといふ
 孫と軍と云ゆるとは大將の意あり
 けりしは義經の意ありといふ
 長年うを本曾大將の意ありといふ
 孫と軍と云ゆるとは大將の意あり
 けりしは義經の意ありといふ

けりしは義經の意ありといふ
 孫と軍と云ゆるとは大將の意あり
 けりしは義經の意ありといふ
 長年うを本曾大將の意ありといふ
 孫と軍と云ゆるとは大將の意あり
 けりしは義經の意ありといふ

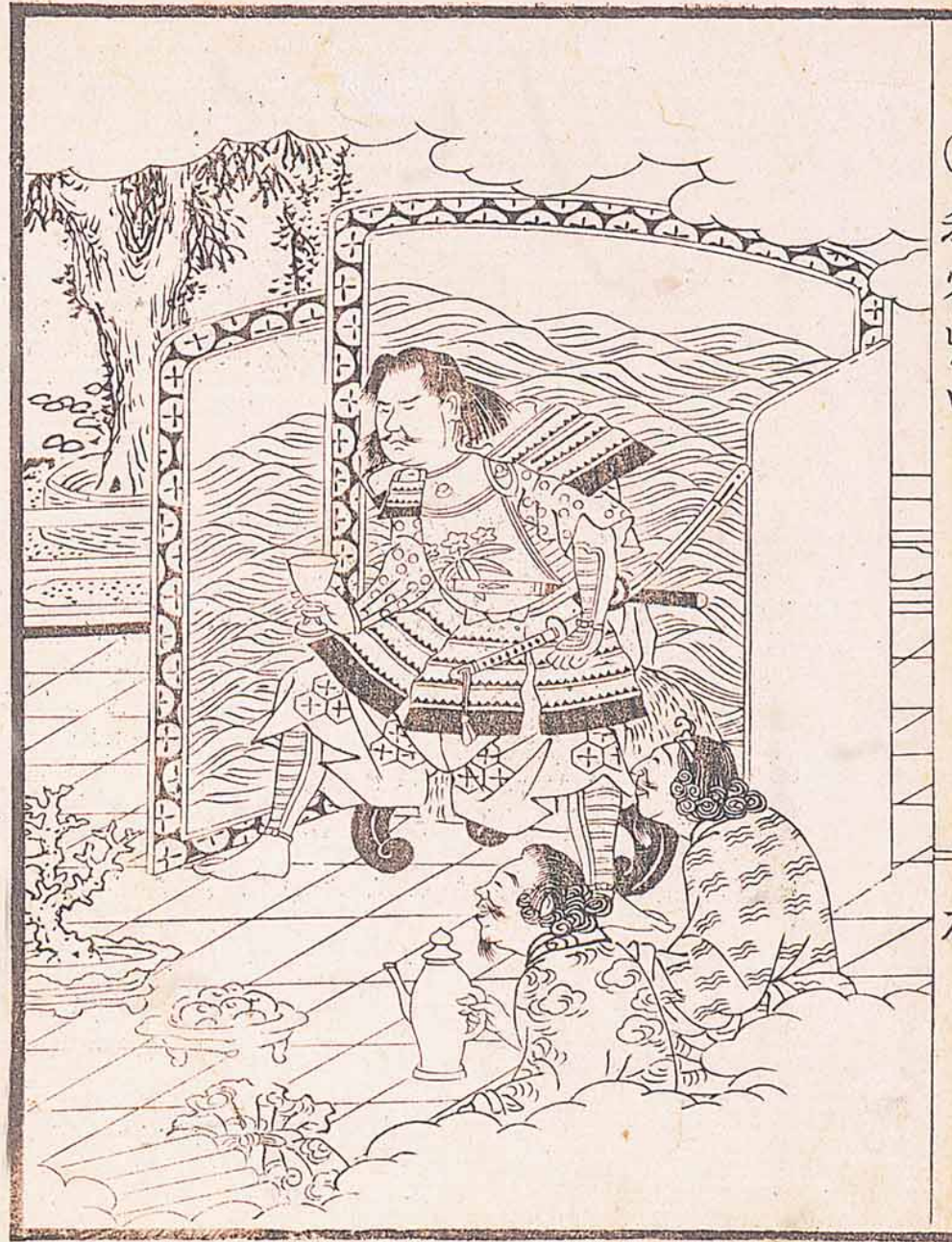
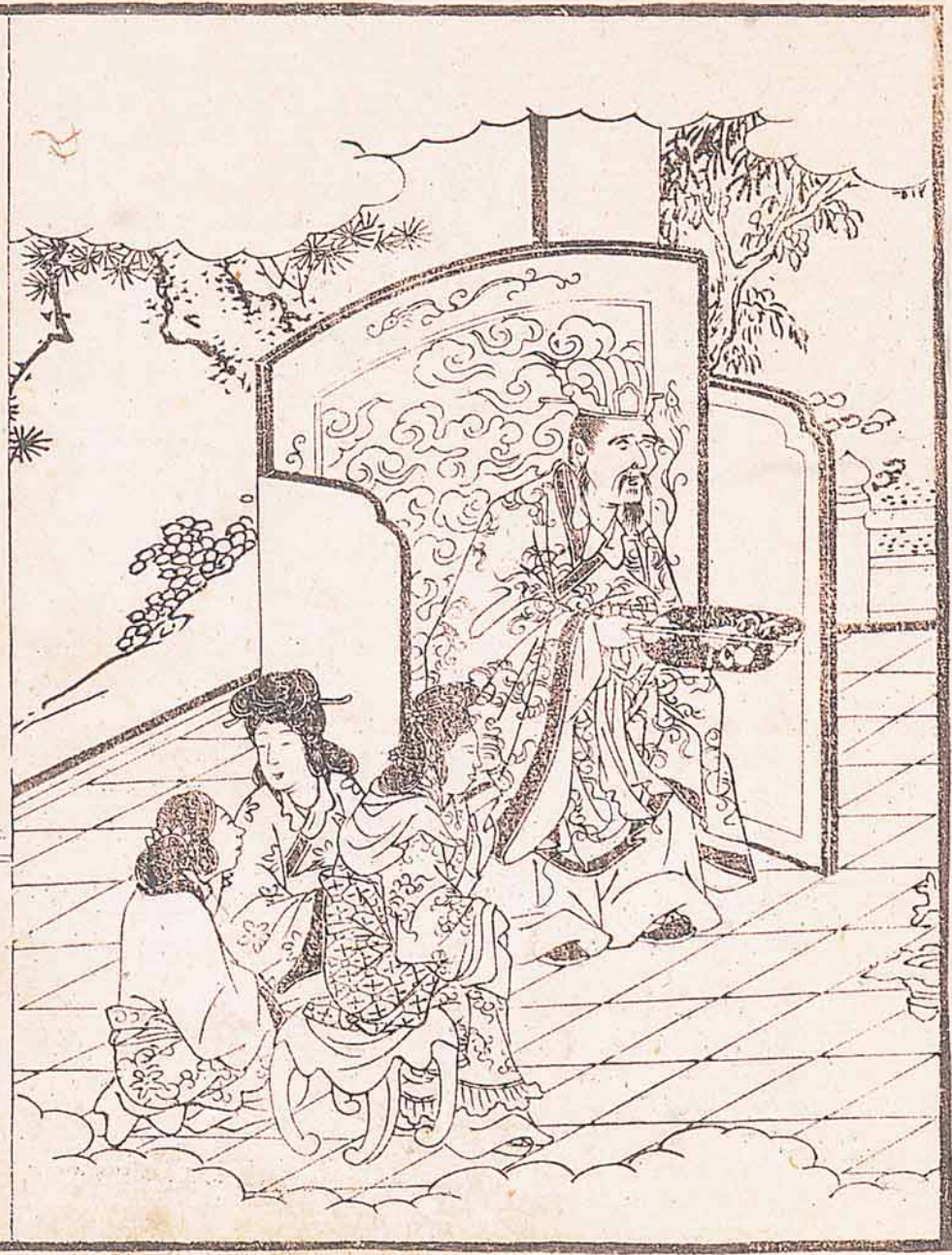
正成ふかと川よ下ると見ふは一巻の書とて
 他田集録にて事受しといふ書ふ矣約は孝子



忠臣のせうに教をうけしむるは、
 してこれとあるは、今枝葉を裁き、
 穢中を洗いぬわく、
 日かきしと古くは、
 こととあるは、
 には小松殿とすむむだ、
 の言をすむむだ、
 是は政の背りをきて、
 ありとすむむだ、

死とて中くとむむだ、
 云母くむり彼と見これと、
 候と燈とと米のそと多き

正統をほほよ小松殿と忠臣と、
 今の言は正統のゆひと考てこそ、
 師直が奈後と、
 終ふ命と頭よ於彼、
 天皇の死をあり、
 うけとてかゝりた、



母よはくし方更りあやまりあしお船大船を討せ
 後継衣川七討せしりて云々しりたりなりお船を
 うらぬへ後日英領と蝦夷へ海へ舟をふりて明ら
 けし母は船へ舟乗こそ多き母人のせしや
 と母はよるよ無様とが親は船をせしたぐひとい
 されよく書かし道理かつていつかたしむるま
 ぼくからさ半よあし船や
 或人の云お船の人と英國の人とついでる言はより
 らんと云言と英國と文と云ふと母はしむば人智と

こがね心柔わがり深海へしし船義とちりては
 よしお船と武と英國と作しは人たのみがれたる海
 強がと深海へしし船義と知りそのすれなり英國
 とて母人のそわらたわし船お船とて悪人のそわら
 その言の強弱とついでお船のはよりなりしと
 お船の言のはよれといはいう言云ふお船は英のそらよ
 北方の艦船人軍とわて言はよしと云へて秦の姪
 皇がしし言人も艦船はよしと云ふとついでるを
 お船は安年中元の學組がばよ日本と攻るともゆ



我宿州中

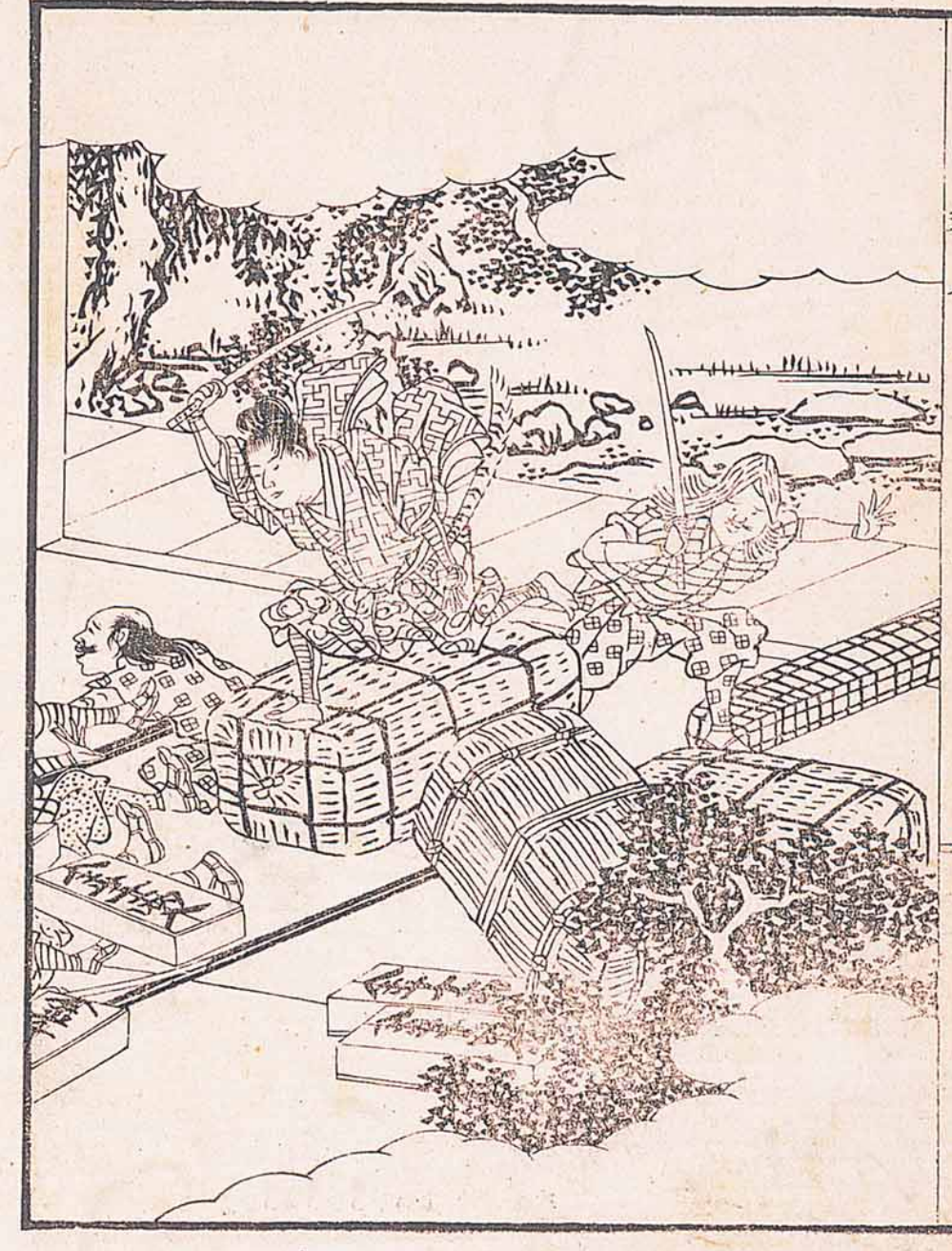
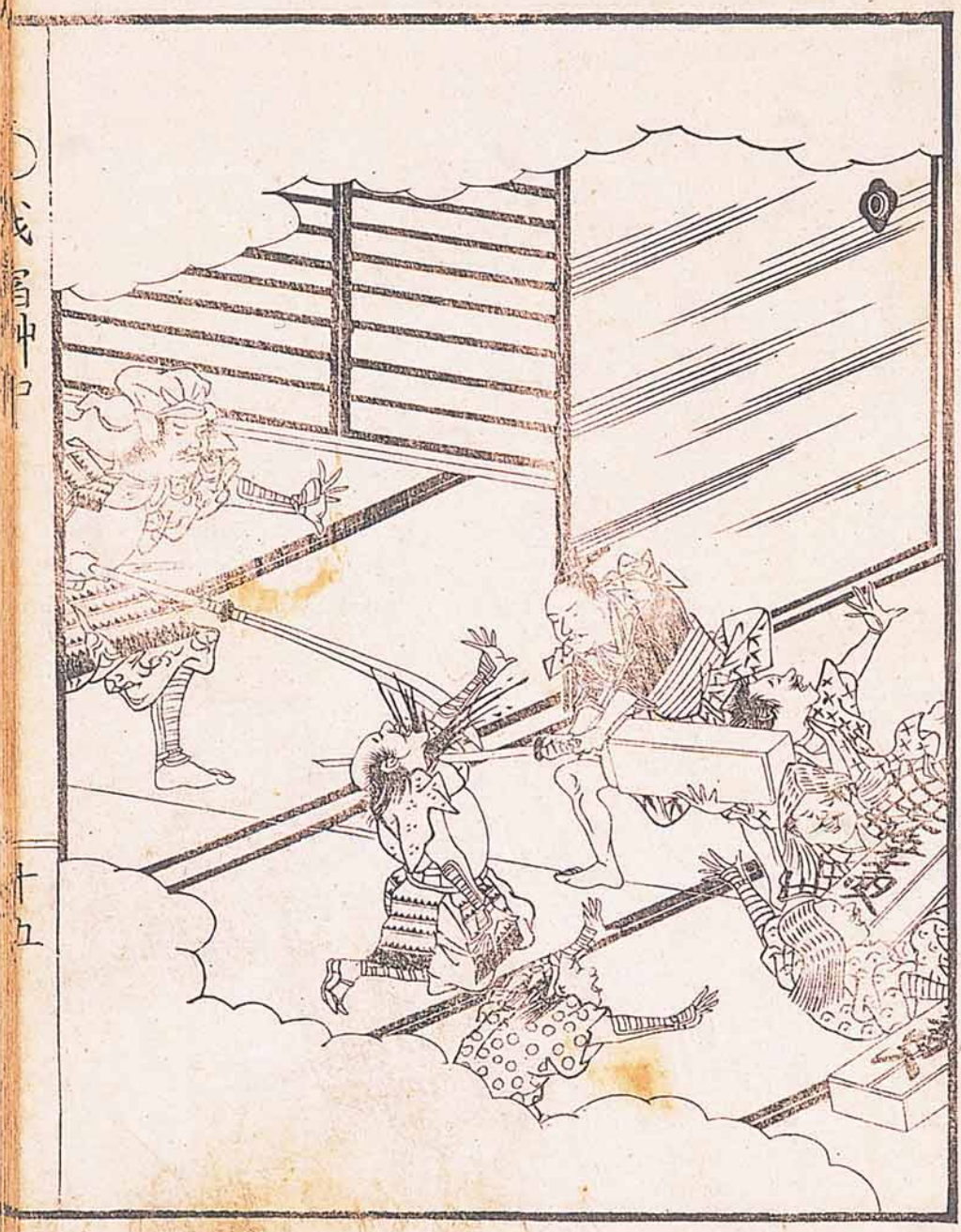
十一

大將を渡とこれより繼韃人なり先陣十方餘人
 肥前國平壺島陣をとり九國の武士松浦原田
 菊池等之方餘騎して押寄て合戦とたひ人の軍
 大よやうとのりてを勢之方餘騎よりぞいて陣を築
 此下とてんでこれを攻む韃韃の軍を大よこれ
 許ととて比よ伏して呼喚や一を人少残るに
 みふけ捕てこれを殊と異名戸子圖莫肯と云
 の僅之人をたをけて本國よ五次くるとみく
 これをかりよ軍の勝負とはうりぐもく一に万

の士生捕らうと帝のよられたゆかりは也日本を
 國風を築とばよいつかる弱をりりも二万人の
 軍をといけいおい集とあし支那人韃韃
 人骨わりと改日本の人と繼韃人とやとく拉ぐ
 とれは支那と日本と比して帝の徳弱とあつる
 赤松赤かといりて威は孫よ云涼とりのて敵と討と
 法約の法りて納とるて敵を敵とて將の法は根
 たしとて團基をいどむと敵の石と盗とく賜るの
 勝よあつばとるか古れ東腹うと頼朝奥州の義衛

ぐ子恭漸因湯を討人々湯瀝一ははしれ恭漸が
 眼近の家人大間の之席と云者小の判友の政よお
 縁々客よ通トははらとを賞あつば恭漸と云ひて
 孫倉よあせんと云朝政が云彼と人形人から我又
 これ同意と云と舐らうと云と是は徳と云ふ
 わははと云頼朝ふのまふと云頼朝のいふと云
 はうひまたは朝政が云彼ふまふはと云
 とれど朝政大間が云いふと云頼朝や彼朝を恭漸が
 方(津方の家人うは客けわりと云云)と云ふ

大間これを見まう大ははらうれうげ夫の恭漸を
 こゝ免逐野ふ是をわ中と云人敵と云味方の
 かと云わはばはらうと云理が云と云名り正成
 これを誅して云頼朝大の徳わを朝政長下は著
 わを恭漸と云義の者かつと云安うはてと愚わ
 の是あはらうと云西日れ評か云
 へとて道と云これと云と云道を云と云成を
 恥ぞと云まひ余と云のいどと云恥よわと云と
 たりうは平ら恥がと云上校刑のを補意恭漸氏の



私書抄

無道を諫一巻の書は貴姓と別して彼船をよび
人よわく彼源の義經をある人なりとて道
に練りよむ物の理とて彼理とてよびたれ船を
よびん夫義をわびひまき奥州へ下りたの先は
商人の財寶とて人として盜賊を多く入たる義
経が居がごとく防がざれば船と舟として身命捨て給
ぐ天下は義とてわらと志わりのとら後の小輩と
船と舟のいふと捨るも事ら船の舟や義経すこ
身と捨るも事ら名のおふとていしてゆきの

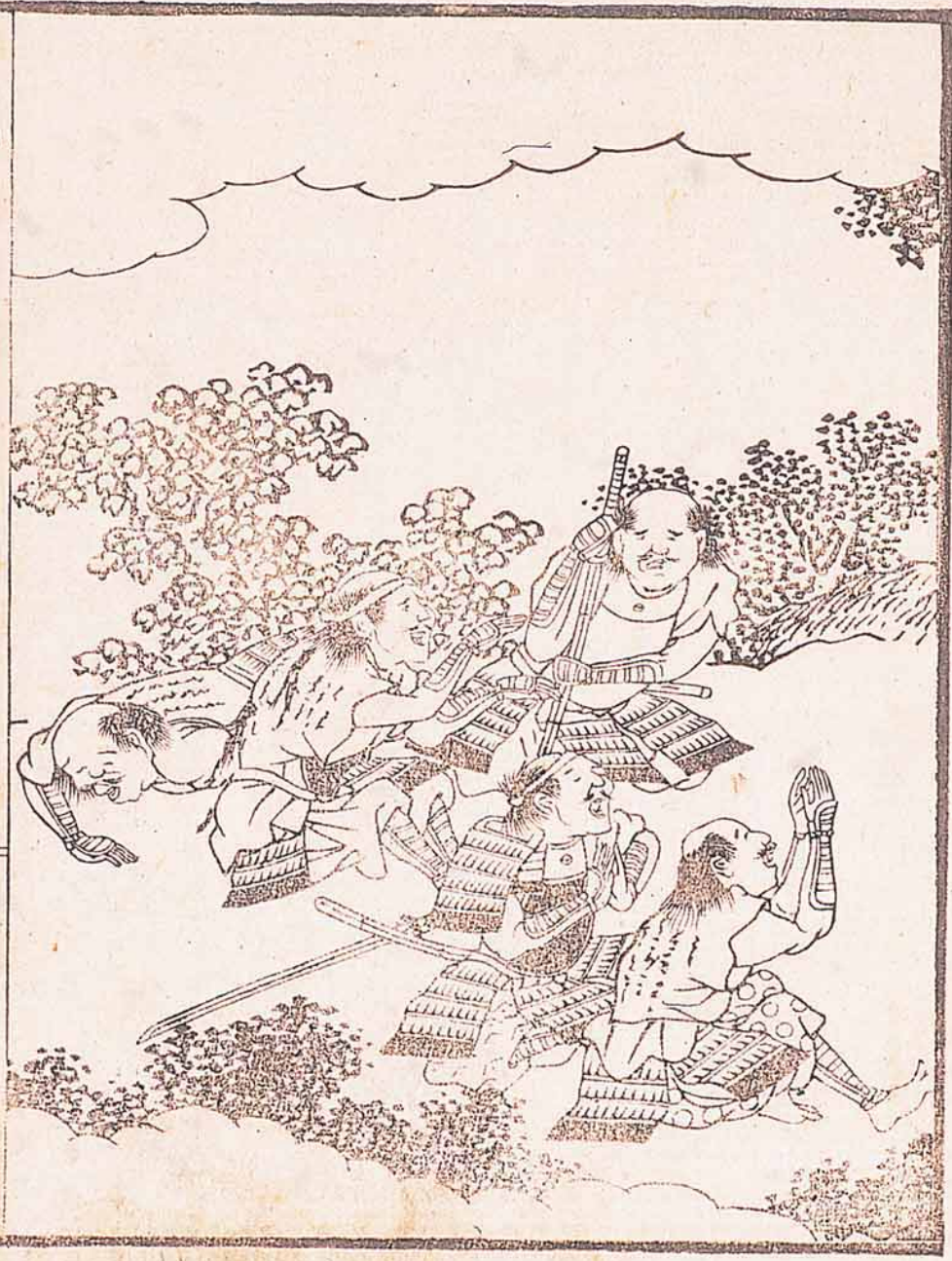
弱れと敵まわらるる大かた船と舟りや人將と
しとて諫しとてわらと一國を治るを
良物とて色と事んと政の術を匹夫の常とて彼を
悪物とて色と事んと船末代の術と招く妹かり人の
事んとて事と命と命を捨るも海と事とを
どして事と事と人の道と船と義経船の舟名乃
まわら命と事と事と事と船と事と名と
かたはこれと事と事と人との道と事と事と聖賢は法と
聖賢の行と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と

私書抄

明地有ていし海の有る一者ていし賢の度之
 煙を天の明を周し不政と地の有を毀し
 無業と人の度と夫のつと悪の申之礼と
 どんど者なりけし書り落しまれば果からけや
 世人の度と清とよくしとわぬと多也言と
 以て人と捨てて人としてと捨てて人を教か
 せしと人の善とてとてと人の短と識る礼
 ち、けや二威が智深と義経義仲の斗無は言
 よ去中の金玉悪人の善と捨てて清之義仲義経が

深哉下なる後とて心威も圓ひより心善を見し
 みけりし者も賢なりふにのち心も人
 と拙れしなりと也

或人家富と一族も多りしと大なる佛徳をほし
 家財を費と家財これと練じ主人の云佛を達し
 吾等からけやと社を達しと我財寶ありにあり
 ぬといし一の守をかりしとていしと者を遊
 けしけりひのまふ心をはくを寺をこむとけ
 一族家人これをよしと家財をほしけり



和
宿
少
中

十
七

富のりのくせありきまひりたりのき衣服どうい
 僧よあつふ志くくせもあひくふまの云具の用と
 忘と許紙く双あつたども知くしは御ふ小將軍
 義教持氏と年痛の出来のまば彼紙らげ人を道
 ろく短かく執場よかーり膚うは佛經をま書する
 夜と宿せらるるは愚人がまばいりせう深裁の道と
 ろくふさふ葉の女氏亂と合裁ー裁くよ討願て
 道まじが道よ強入るまば經書する夜ハ泥よ保とて
 文字と見へてかり建つる寺へ道まらる一族百餘人

いりの強執を任備出て云輪廻ハ車の輪れと
 今の有候これ色去業障の果か候かまば道と路
 だれりあへ一かうんときトト自害者下後世を
 吊ひまのせんとき云実ととてみか自害けり
 何備そのら候と講讀よとて物具ととてく
 くたれり候す一たあへ候や死せよといとたや
 とく死と候かまば道する教とけかといつるは
 節義と守るまらるは佛僧の送教とて死とて
 とく候よ死て候骸の上す七砂をす下候今とら

海^{うみ}どりたき^き次^{つぎ}今の昔^{むかし}は盜^{とう}傳^{でん}の^とど^とあ^あん
 法^{ほふ}と^と受^うま^まの昔^{むかし}道^{みち}と^と身^みの半^{はん}稀^ひり^りる^るべ^べく^く實^{じつ}歌^か
 ば^ばれ^れや

我宿草巻下

或^{ある}人の云^い成^{なり}義^ぎ經^{きやう}と^と海^{うみ}て^て敵^{てき}と^と知^ちり^り味^{あじ}方^{かた}と^と云^い
 ど^どと^と云^い何^{なに}ぞ^ぞや^や若^{わか}く^く云^い成^{なり}が^がい^い之^の内^{うち}を^を梶^{かぢ}原^{はら}ハ^ハ能^{のう}添^{ぞん}
 と^とゆ^ゆま^まを^を義^ぎ經^{きやう}と^とよ^よく^く裁^{さい}と^とゆ^ゆり^りと^とあり^り梶^{かぢ}原^{はら}逢^{おう}櫓^ろと^と
 立^たん^んと^と云^い一^{いつ}半^{はん}雨^う氣^き先^まふ^ふて^て云^いは^はり^り後^{のち}義^ぎ經^{きやう}を^を是^{こゝ}と
 言^いふ^ふと^と云^い人^{ひと}慣^なと^と食^くり^りの^の味^{あじ}方^{かた}と^と知^ちり^りべ^べかり
 う^うれ^れも^も軍^{いくさ}の^の利^りを^を失^うつ^つべ^べり^りと^と能^{のう}敵^{てき}と^とゆ^ゆた^たる^るを
 云^いふ^ふ一^{いつ}又^{また}同^{どう}成^{なり}之^の梶^{かぢ}原^{はら}逢^{おう}櫓^ろの^の味^{あじ}方^{かた}と^と知^ちり^りべ^べかり
 梶^{かぢ}原^{はら}逢^{おう}櫓^ろや^や若^{わか}く^く云^い逢^{おう}櫓^ろの^の味^{あじ}方^{かた}と^と知^ちり^りべ^べかり